



SAP Ariba 

機能の概要

Master Data Retrieval API

Sean McGann、SAP Ariba
一般提供予定: 2020 年 11 月

CONFIDENTIAL

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

導入の難易度
対象エリア

● ハイタッチ
● グローバル

今までの課題

現在は、SAP Ariba システムにマスタデータをロードすることはできますが、REST API を使用してロードされた情報を抽出し、そのデータを使用するほかのクラウドソリューションとデータが同期された状態になるようにする方法がありません。

対象ソリューション

- SAP Ariba APIs
- SAP Ariba Developer Portal
- SAP Ariba Buying and Invoicing
- SAP Ariba Buying
- SAP Ariba Invoice Management
- SAP Ariba Sourcing
- SAP Ariba Sourcing
- SAP Ariba Contracts
- SAP Ariba Supplier Lifecycle and Performance
- SAP Ariba Strategic Sourcing Suite

SAP Ariba で問題解決

この機能により、Master Data Retrieval API を使用して、マスタデータサービスデータベースによって使用されたデータを読み込むことができるようになります。この REST API を使用すると、自社のサイトからマスタデータを読み込み、そのデータを使用して、ほかのサイトが連携されるようにすることができます。また、SAP Ariba Developer Portal でクライアントアプリケーションを作成し、それを使用してこの API を呼び出すことにより、マスタデータをフィルタリングしてダウンロードすることができます。

関連情報

この機能は、該当するソリューションを使用しているすべてのお客様に対して自動的に有効になりますが、お客様が設定する必要があります。

主なメリット

この機能により、REST API を使用してマスタデータを取得することで、すべてのシステムのデータを一致させて最新の状態に保つことができます。このデータは、ほぼリアルタイムで返されます。これには、探しているデータのみが抽出されるようにするために追加できる多くのフィルタが含まれています。この機能は、たとえば SAP Fieldglass で使用できる SAP Ariba のマスタデータをチェックする場合などに利用されています。

前提条件と制限事項

- この機能に関連する SAP Ariba APIs を使用するためにアプリケーションを作成してアクセス権を依頼するには、SAP Ariba Developer Portal にアクセスする必要があります。詳細については、SAP Ariba Developer Portal のヘルプで「API の使用を開始する手順」を参照してください。
- この API に対して行われたクエリはすべて、OAuth 認証によって認証される必要があります。詳細については、SAP Ariba Developer Portal のヘルプで「Developer Portal 認証」を参照してください。

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

機能の詳細情報

(下記のサンプル呼び出しは US データセンターに固有のものです。その他のデータセンターの場合は、Developer Portal を参照して適切なランタイム URL を探してください。)

ワークフロー

1. SAP Ariba ソリューションにより、マスタデータサービスでマスタデータが記録されます。
2. クライアントアプリケーションから、利用可能なマスタデータエンティティすべてを取得する要求が送信され、マスタデータエンティティを取得する必要がある地域情報およびレルムが要求ヘッダーで渡されます。
 - サンプル GET URL: <https://openapi.ariba.com/api/mds-search/v1/prod/entityTypes?realm=mytestrealm>
3. クライアントアプリケーションで、追加フィルタを使用して、取得したマスタデータのドリルダウンを行うことができます。
 - サンプル GET URL: [https://openapi.ariba.com/api/mds-search/v1/prod/entities/companycodes?\\$top=100&\\$skip=0&\\$orderby=UniqueName,PasswordAdapter&\\$includeInactive=false&\\$includeFlexFields=true&\\$count=true&\\$includeNullValues=true](https://openapi.ariba.com/api/mds-search/v1/prod/entities/companycodes?$top=100&$skip=0&$orderby=UniqueName,PasswordAdapter&$includeInactive=false&$includeFlexFields=true&$count=true&$includeNullValues=true)

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

機能の詳細情報 – エンドポイント

1. GET/entityTypes – マスタデータサービスでクエリの実行対象として使用できるすべてのエンティティの種類を取得します。
2. GET/entityTypes/{entityName} – 特定のエンティティのメタデータを取得します。
3. GET/entities/{entityName} – 指定されたフィルタに基づいてエンティティを検索してデータを返します。
4. GET/entities/{entityName}/\$count – 返される結果の数をカウントします。

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

機能の詳細情報 – クエリパラメータ

クエリパラメータ

1. **\$EntityName** – マスタデータ詳細を取得する必要があるマスタデータエンティティの名前です。
2. **\$select** – 出力に必要なフィールドです。複数のフィールドを、カンマ区切り値として指定することができます。
3. **\$expand** – 展開表示されるエンティティです。複数のエンティティを、カンマ区切り値として指定することができます。展開表示は、関連付けの最初のレベルでのみサポートされています。1 対 1 の関連付けの場合は、すべての直接フィールドが展開表示されます。1 対多の関連付けの場合は、キーフィールドのみが展開表示されます。
4. **\$filter** – 指定されたマスタデータエンティティについて、取得する詳細を指定するためのフィルタ基準です。このフィルタでは、\$select でサポートされているフィールドすべてをクエリで 사용할 ことができます。
5. **\$top** – 応答で返されるレコードの数です。
6. **\$skip** – 検索結果の最初からスキップされるレコードの数です。
7. **\$orderby** – 結果を並べ替える際の基準となるマスタデータエンティティのフィールドです。
8. **\$includeInactive** – 無効なレコードもすべて出力に含めます。通常 の値は False です。
9. **\$includeFlexFields** – すべてのフレックスフィールドを出力に含めます。通常 の値は False です。
10. **\$count** – True に設定すると、出力にデータとともにカウントが含まれます。
11. **\$includeNullValues** – 属性に値がない場合でも、応答に属性を含めます。

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

機能の詳細情報 – サンプル出力

GET <https://openapi.ariba.com/api/mds-search/v1/prod/entityTypes?>

Params ● Authorization ● Headers (11) Body Pre-request Script

Body Cookies (1) Headers (28) Test Results

Pretty Raw Preview Visualize JSON ↺

```
2 {
3   "EntityName": "groups",
4   "Name": "Group"
5 },
6 {
7   "EntityName": "users",
8   "Name": "User"
9 },
10 {
11   "EntityName": "uoms",
12   "Name": "UnitOfMeasure"
13 },
14 {
15   "EntityName": "localeids",
16   "Name": "LocaleID"
17 }
```

GET [https://openapi.ariba.com/api/mds-search/v1/prod/entities/users?\\$filter=substringof\(Unic](https://openapi.ariba.com/api/mds-search/v1/prod/entities/users?$filter=substringof(Unic)

Params ● Authorization ● Headers (12) Body Pre-request Script Tests Settings

Body Cookies (1) Headers (27) Test Results 200 OK

Pretty Raw Preview Visualize JSON ↺

```
9 },
10 "Name_en": "Irene",
11 "SystemId": "AN01003217061-T",
12 "PasswordAdapter": "SourcingSupplierUser",
13 "TimeUpdated": "2015-09-28 06:42:16.0",
14 "EmailAddress": "istathis@ariba.com",
15 "Created": "2015-09-28 06:42:16.0",
16 "TimeCreated": "2015-09-28 06:42:16.0",
```

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

考えられる使用事例

- SAP Fieldglass などのほかの購買システムと同期された状態で、マスタデータを読み込むことができます。
- Master Data Retrieval API を使用して、チャットボットや外部システムからの購入申請の作成時にユーザーの会計情報が自動的に入力されるようにすることができます。
- マスタデータを読み込むことで、システムでユーザーが識別されるようにすることができます。たとえば、あるサイトへの SSO で、SAP Ariba で使用しているものと異なるユーザー ID が使用されている場合に、ユーザーの電子メールアドレスを使用して Master Data API を呼び出し、SAP Ariba でユーザーを識別するために使用する必要があるユーザー ID を特定することができます。

機能の概要

説明: Master Data Retrieval API

SAP Ariba 拡張性コミュニティ

- API に関する質問がある場合は、下記のリンクから、お客様、パートナー、SAP Ariba のフォーラムを参照してください。以下の内容をご利用いただけます。
 - 考えられる使用事例に関する意見交換
 - アイデアの共有
 - 疑問点に関する質問と回答
 - SAP Ariba APIs（およびその他の拡張機能）に関するドキュメントの照会
 - SAP Ariba の拡張性（API）に関するビデオおよびポッドキャストの視聴
 - SAP Ariba パートナーとなるための詳細情報を調査
 - パートナーが現在提供している拡張アプリケーションのタイプに関する詳細情報を調査
- <https://community.sap.com/topics/ariba-extensibility>